

## 都市の快適性と新幹線の可能性

新春に宮崎駿と養老孟司の対談をテレビで見た。宮崎はアトリエの分室を愛知県豊田市に置いて作品を作るらしい。「東京でのストレ

スは過重すぎて、良い作品が作れない」。そんな思いがあるようだ。彼はジブリ保育園を近年作ったほどであり、そんなところにも現代社会の病理への危機意識を感じる。

金沢での新幹線開業を、経済圏間の綱引き、ストロー現象への危機感、そのようなマクロな経済問題としてのみでなく、個人のストレスマネジメントの側面からも考えてみたい。つまり、個人にとって望ましい都市の快適性を、新幹線の開業とどのように関連づけるかということだ。

都市の快適性とは、購買も含めた情報の利便性と過密によるストレスのバランスが丁度うまくとれている状態で成り立つのだと思う。東京ではストレスが強すぎ、金沢では利便性の度合いが弱い。こうした二つの項目のバランスがとれた中核都市として、金沢の都市サイズは決して大きいとは言えない。しかし金沢には、都市のサイズを超えた大きなブランドイメージがある。

このような潜在的な状況をふまえ、両者の新幹線による結節は、相互に爆発的な移動を生み出すだろう。それはお互いの欠損感を埋めるものであるからだ。「東京から」の個人にとって、この街の蓄積された文化はストレス

を慰める役割を果たさずろうし、「金沢から」の個人にとって、東京は心地よいストレスを伴った刺激を与えるに違いない。

交流する両者は移動する「ノマド（遊牧民）」として、個人の中に都市の快適性を現出させる。また個人の意識の変容が都市自体を変えていく。こうして、金沢はイメージに見合った中核都市としてのプレゼンスを獲得する。そのため潜在力をこの街は持っている。中央と地方を単につなぐための、高度経済成長時代の産物としてでなく、成熟し、変革期にある現代社会において、都市の快適性を実現するものとして、新幹線がつながる可能性をとらえなおしたい。●

松本大  
Text by MATSUMOTO Dai  
建築家  
都市環境マネジメント研究所 研究員  
松本大建築設計事務所代表

